

モダンな家が立ち並ぶ金峰山麓の河内町岳地区。自然環境や市街地へのアクセスの良さから、移住者に人気だ=熊本市西区



金峰山の麓、熊本市西区河内町岳地区が、子育て世代やシニア世代の移住先として人気を集めている。学校統廃合が検討されていた地元の芳野小も、児童数が上向いている。新たにオープンした店舗もあり、住民らは「自然環境と市街地へのアクセスの良さが人を引きつけています」と、地域の将来に期待を込める。(立石真一)

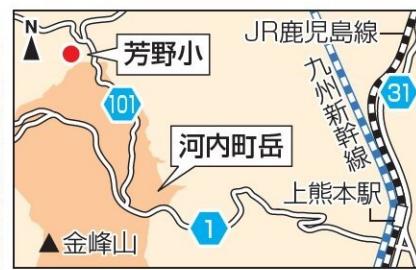
## 河内町岳地区

芳野小の昼休み。校庭には、「芳野みんなの森」にて、児童の歓声が響いていた。井手正昭校長(58)は「恵まれた自然の中で思いきり遊べることが芳野小の自慢の一つです」。

全校児童は63人。そのうち18人が新1年生だ。昨年に比べると倍の人数となり、学校は活気づいている。2学期には、さ

# 金峰山麓

# 移住者に人気



芳野小校庭に隣接する「芳野みんなの森」で遊ぶ児童。木製ブランコやハンモック、ロープにぶら下がって遊ぶ遊具などは住民が整備した



West  
西  
発

えがあり、児童数の減少に歯止めが掛かった」と井手校長。住民らは市の補助を受けてスクールバスを走らせているが、児童数が増えた岳地区は、昨年度までの1往復から2往復に増便した。

岳地区には、13年前に造成された28戸分の分譲地がある。うち27戸分が販売済みで、ここ数年、モダンな一戸建てが目立つようになつた。4年前に南区から越してきた介護坂本一人さん(33)は「価格も比較的合理だ

ったし、のどかな雰囲気が気に入った。小学校と保育園に通う3人の子どもも伸び伸び育っています」。職場まで車で片道20分のアクセスの良さも決め手だったといふ。

第一の人生を過ごそうと昨年9月、愛犬を連れて夫婦で中央区から移ってきた廣吉賢一さん(66)は「市街地に近いのに、朝はヒグランの声で目が覚めるんですよ」とうれしそうだ。

芳野校区の人口は1957人(4月1日現在)。ついに2千人を割り込んだ。その中で岳地区は、0~14歳の人口がここ5年間で増加している。にぎやかなのは子どもだけではない。景観を生かした店舗もオープンし、遠方からドライブで訪れる客もいる。登山道近くに昨年、夫婦で眼鏡や器などを扱う「p.i

vert(ピヴェール)」を開いた中山綾子さん(40)は「お客様も『こんな所に住みたい』と言つてくれる。これからもつと元気になる地域だと思います」。

有明海に沈む夕日と特産のミカンカクテルなどを楽しむイベント「オレンジカクテルナイト」など、西区役所とも協力して地域のPRに力を入れる。西村会長は「岳地区のほかにも芳野校区は多くの魅力がある。今後も情報発信していく」と意気込む。

過疎化や少子高齢化の影響で先細りしていく地域を守ろうと、住民は行動を続けてきた。校区自治協議会の西村一弘会長(71)は「学校がなくなると、さらに過疎や高齢化が進む」といつ危機感から、人口増・集客増のためにできることをやつてきたという。

まずは子育て世代を呼び込もうと、学校環境の整備に取り組んだ。12年前からのスクールバス運行に加え、校庭横の「みんなの森」も、住民手作りだ。さらに、空き家の紹介も。去年は子育て中の2世帯が入居した。「移住者がマイホーム購入を機に戻ってきてくれるような環境をつくりたい」と話す。